

(目視で教えて60人位?)
(関係者含む)

ACF 2018 新年7ホーラム 札幌国際芸術祭を考へる

2018.2.3.SAT
14:00~17:00
カゾウ2.7(520)

- ◆ 開会
 - 羽合 大橋
 - 開会の挨拶 中森氏
 - 以降の進行 古家氏

・札幌国際芸術祭開催はACFでもまだ1人の一人。
・市民と一緒にこの芸術祭がどう育っていくか見守りたい。

◆ 1 <SIAF2014, 2017を振り返る> (札幌国際芸術祭実行委員会 事務局長 熊谷氏)

- SIAF2017の概要
 - ・ テーマ「芸術祭、ごちんだ? 十の月の星座たち」
 - ・ ディレクター 大友良英氏、運営体制
 - ・ 会場、作品の紹介
 - ・ 芸術祭の特徴としては多種多様性?

	<ディレクター>	<テーマ>	<サブテーマ>	<会期>	<入場者数>
SIAF 2014	坂本龍一氏	都市過熱	「自然」「都市」「経済・地域・ライフ」	7/19~9/28 (72日間)	478,252人
SIAF 2017	大友良英氏	芸術祭、ごちんだ?	十の月の星座たち	8/6~10/1 (57日間)	381,697人

- 1981年の第1回国際現代芸術展? からの SIAF 開催までの流れの説明。
- 創造都市: 文化が私たちが暮らすに役立つ、創造性を高める、右の効果を期待するのは
- 現代美術: 経歴の定まらぬ芸術。一人の作るものではない。議論が起る...等。
⇒ 街に「コト」が起る。
- 大友さんの言葉: 札幌は札幌もよく芸術祭に似ている。札幌の人たちが工夫して新しい形を考へていくはず。2017を体験した人たちが次どうするか?

主宰高橋が記録できていなかった部分につきまして情報のご提供をいただきましたので追記しました。(2018/2/4)

◆ 2 <アート都市>テーマの議論から (札幌アート都市ネットワーク代表 西川氏)

- Vnet での芸術祭について毎回も議論した。
- 芸術祭のコンセプトを独自に作成、13枚を配布する予定。
- 「この芸術祭を能く引き出すにはどうしたらいいの?」
- 「札幌らしい国際芸術祭を展開したい!」
- SIAF2017は偶然重複? → 札幌、札幌と併せて開催した、という声も。
 - ・ 遠い
 - ・ 企画がこころみ。
 - ・ ノイズがたつ?
 - ・ 金も多く、支援者が多い。行きがたない。負担が大きい。
 - ・ 第1回「都市と自然」→ 第2回(2017)はもう一回に継ぎたい。

「ここに大事に打ち出す」
札幌の独自性 国際性

・ SIAF2017は札幌市の夢を成すためのまちづくりは否か?

(・ 創世都市 ... 「一人一人が『よい都市』を思っている」と思う)

- ・ 札幌・札幌の人たちは何がしたい? / 発信したい? - [↑] 都市全体の創り出しにどうつながる?
- ・ 現在の札幌にはた(じん)い(は)り(し)が(来)る ← 札幌市の文化を世界へ。(国際性?) (ここを志した会社).

→ 日本人でどんな人?

→ 札幌の文化は何? ... 見守る文化でよくアート系を起用した。

・ 国際性: どのように視点を置く? ← このために「自分自身を知る」、仮に「ここ」がわかる。(自分の土地、歴史等...))

(・ 多様 = 「一人一人が誰も遠慮しない状態」?) → ヒーローやカリスマがいないのかわりに小粒のやり取りで皆がやる。(こころを芸術者が変えたと思う)

- ・ 送外のアーティストが示してくる視点を素直に受けとれよう → 気づいた瞬間が大事
- ・ 何故か、たゞ一息にやるはずが楽しい → 次は楽しむ芸術家にした。色んなものがあつた。

② について

・ 2014年のコンテは「よくある下土」が決まっていた。2017年のコンテは自主的に「何をする」を考るところ。

← 今後の課題

・ 2017年のコンテは多岐活動の場。テーマに「情報」が集まるわけが、その場には充実感。市民の関心への説明はあつた。

・ 2017は「中に入っている人は充実感・満足感」「どうなる、遠まきに見る人」(この人たちを巻き込むコンテの役割は?)

(おまけ)

・ 2014 → 3Dコンテ化
2017 → 情報発信、透明。

← これを踏まえてどう構築する?

・ コンテ「開かれた」という概念の「オープン」の広がり。

・ コンテ: 楽しむと「楽しむのが!」「元々あるのは!」という気持ち。『大阪の文化財を守る』では盛り上がる。

・ 市民の欠着。(宮井さんも喜ぶほど)

→ 2014は異議をもち、多岐で連携できる...

→ 2017は欠着にして決定。予算もつけた。... 「国を自分で完結させること」が条件。

③ について

・ ゲストディレクターがいないこともあって体制がどうなる?

・ 私はゲストDはあつてもいい。「予算規模が大きくなること」を心配。よほどゲストDと呼んで、その人の担当のプロジェクトはあつて、他のプロジェクトとちゃんと連携。

・ ずいぶん前に任職すると「いつも違うのを見たい」と思う。

- 「木村3h」は生きた森、人はかま、て交付があること。
- 2020に向けて今日・明日の付加価値を? を考え、公費に動く前に自分で活動を始めよう。
- 行政: 開催年の予算, 非開催年の予算が違えば、力の入れ方も違う。
- SIAFラボについて (漆さん)
 - > 芸術祭の非開催年に芸術祭の普及促進を行う活動。
→ 芸術祭に関心をもち、てもらう。カヌー
 - > SIAFラボ独自の活動理念を持つように。
→ 自分たちがどんなことを選択し、付加価値を? のか考える。
→ 願望、"Yラボ"
→ 「木村を知ろう！」
- SIAFラボ → SIAF A のつなぐ力があまり見えなかった。
市民の動きを SIAF につなぐ仕組みを維持する。
- 2017 「アートと食のミテ」 ← 通年でや、ててもいいのは。
- アートと食のミテ (芸術祭 2017 に今年も? 開始)。
区外から来た作家に招待する情報をまとめる資料を作ろうとした。
活動は今年も継続。
- 芸術祭は区内でオープン、クローズの事業ではない。
→ この概念、食料を扱うは? が必要。
他の人たちが入り出す...
→ ここに? - テキネータが必要。
非開催年も活動していいとおもうのは。

来年度の計画
立てようとする

◆ 5 全席の意見・質疑応答

- 近所 (モエ) があるが "周りの人達、たけ" 誰も知らない。
→ まちつと (も) ターの PR さんたちに 情報をあつらえる?
- 市民 皆が命がけを 皆で 例はモエシで 一歩に踏みとはあつた?
- 50年前 木村のミテ。ここも推して、モエシ、芸術の森等は当時のインフラ。
今は更迭の時。今の私たちが 50年後、将来への投資として付加価値を? のか?